

愛媛学 第2回 「地域社会のあり方及び地域づくりの担い手づくり」 レジュメ

① これからの地域社会のあり方

1. 住民主体のまちづくりの必要性～これからの目指すべき地域社会

- 現在の社会…自助、互助、共助、公助、新しい公共 →住民自治の必要性

2. 住民自治の実現に向けた住民のあり方～住民間の関係

- ×トップダウン（強力なリーダーシップ） ○ボトムアップ（調整型のリーダーシップ）
- 支援者、コーディネーター、ファシリテーターとしての役割がリーダーに求められる
- 参加の場づくりが重要 →地域社会では、納得解（合意）が求められる
- 当事者意識（自分事）を持続的に高める必要性、一人一人の得意技が活用できる社会を目指す

3. 地域課題とその分析・合意形成の手法、課題解決の事業化～ソーシャルキャピタルの重要性

- 生活課題が地域における新たな支え合いを創出する
- 生活課題の解決に向けて
- 目の前にある課題に気がついた人から、自分事として課題への共感者と一緒に立ち上がること
- そうした活動が多く起きることがこれからの社会にとって必要
- それが人間関係資本であり、社会関係資本（ソーシャルキャピタル）になる
- 自らが受縁されるだけでなく支援する存在になることが求められる

※ノート①：「このような地域社会のあり方についてどう思いますか？」

② 地域づくりの合意形成の手法と担い手づくり

1. 地域住民主体のまちづくりの実現

- 課題を一人の力で解決することは困難で、多数の人が協働する必要がある
- **地域での合意形成（会議～ワークショップ）**
 - 参加者に当事者意識を持ってもらう必要性
 - 会議をすること自体が目的ではなく、次の行動につなげていくことが目的
 - 会議のルールを共有 →合意に基づいて行動するために
 - 相手に伝わる言葉を使う、相手の意見をよく聞く、反応前によく考える、「べき」論だけを語らない、実践者としての意思を表明する（×ご意見番）、挙手で合意の意思表示をする
 - 話し合いの技法
- **協働型地域課題解決に向けた担い手づくり**
 - 共創的な会議を継続することで共感と共有が生まれ、地域課題解決の担い手づくりにつながる

※ノート②：「こうした共創的な会議の手法についてどう思いますか？」また「身の回りで、この手法を使うとしたどんな場面が考えられますか？」